

クラス番号	927	担当教員名	山口 宏
テーマ	戦後の社会変動をとらえつつ、 そのなかで地域の共同性をめぐる現在の課題を考える。		
ゼミナール概要			
目的、内容、方法等： いまこの社会を見渡すとたくさんの問題が山積みですが、しかしまた希望もたくさんあるはずです。そんないまを考えるために、「いま」を作ってきた歴史的背景への視角は欠かせないものです。さまざまな世代の人たちが生きてきた時代を知ることも大事でしょう。ここではまず戦後の社会変化をとらえ、世のなかの何がどう変わって、どんな社会問題が生まれやすくなったのかなどを見えるようにして、そのうえで個々の問題を発見していったらいいと思います。また担当教員の専門は「社会学」ですので、社会学の考え方も紹介しつつ進めていきます。 まずはいろいろな題材をもとに自由に議論する力を高め、1年生よりもさらにグレードアップした発表の仕方にも身につけていくことが目標です。そのうえで後半では、それぞれのグループで具体的に問題を絞り、資料を読み、ひとに話を聞き、目で見て調べ、地域への政策提言といえるような自分たちなりのアイデアを出せるようにしていきたいと思います。 それぞれが関心をもって深めていくテーマは自由で、とくに縛りはありませんが、「よりよい共同性とはなんだろう」という関心が共通の基盤になっていけばよいでしょう。また担当教員の関心として、たとえば音楽イベントなどのような、若者文化がもたらすつながりの可能性といった視点も少しだけ取り入れていきたいと思っています。			
授業計画： 前期は、前半は教員からの講義もしながら映像やいろいろなものを使って、戦後の社会変化をたどります。その過程でグループごとのテーマを選び、前期の後半にはグループ発表をしていきます。 後期はグループごとで今の社会の課題を絞り、調べていくことが中心で、その成果は最後のレポートと全体報告会で披露してもらいます。特定のテキストなどはありませんが、必要に応じて教員が印刷した資料を渡していきます。たまにはゼミの本テーマから外れて、ゲスト講師を呼んだりすることもありますし、息抜きのことも交えつつ、しかししっかりと学んでいきます。			
担当教員からのメッセージ			
 福祉に絞った内容ではないので、福祉の現場実践的な関心強い人には物足りないかもしれませんが、まずは広く社会を見渡したいという人には良いかと思います。昔と今のいろいろな文化に関心がある人にも良いでしょう。しっかり出席して議論で発言することは必須なので、選択してくれる人は、「福祉の専門は嫌だから」といった消極的な動機でなく、たくさんの好奇心をもって来てください。			